

## 第1回次期あいちビジョン有識者懇談会（9/2（月））の結果概要

## 【フォローアップ関係】

## &lt;内田委員（中京大学経済学部 客員教授）&gt;

- ・ 現行ビジョンの数値目標については、それぞれ達成率はかなり高い。評価が「△」となっているものでも90%近い達成率となっており、評価基準が厳しめと感じる項目がある印象である。
- ・ 次期あいちビジョンの数値目標については、次世代製造業、国や地域別での訪日観光客数、農業の高付加価値化、スタートアップなど、愛知県が重点的に取り組む施策の指標を活用し、方向性が見えるようにしていきたい。

## &lt;森川委員（名古屋大学未来社会創造機構 教授）&gt;

- ・ 観光、スタートアップ、環境、安全安心に関する数値目標を、新たなビジョンに加える必要がある。

## &lt;昇委員（名城大学都市情報学部 教授）&gt;

- ・ 世界やアジアの視点からシェアを把握したり、愛知・名古屋の都市力を上海やシンガポールなどの世界の各都市と比較することも重要である。
- ・ 観光では、ビジターズ・インダストリー（集客交流産業）の対象となる観光客及びビジネス客の指標を採り入れてはどうか。

## 【社会経済の展望と愛知の将来の方向性関係】

## &lt;奥野座長（(公財)名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター長）&gt;

- ・ 名古屋市以外の西三河などの都市は、まちづくりが時代の流れについていけないと感じる。若い女性が魅力を感じるまちになっていくことが重要。
- ・ 減少する人口を地域で奪い合うのは国家100年の計にならない。東京都区部、名古屋市、大阪市の出生率を上げていくことが大事。
- ・ 関係人口として、ビジネスマンや研究者を含めた外国人を増やしていく必要がある。そのためには、英語ネイティブの人がストレスを感じない程度に英語が通じるような環境にしないとイケない。

## &lt;後藤委員（日本福祉大学福祉経営学部 教授）&gt;

- ・ 愛知県の人口増の内容を見ると自然減を社会増で補うとともに、外国人が増加傾向にある。こうした人口の多様性は、新たな課題を生むことが懸念される。
- ・ 単身世帯が増える中、共助社会の実現に向けては、社会的孤立をなくしていくことが重要である。経済的自立とともに、精神的自立も大事であり、それを小さな頃から養っていくことが必要である。
- ・ 不健康になったり、次代のニーズに合った能力を身に付けられない人も多い。障害者、子ども、子育て女性など様々な立場の人の仕事づくり（地域密着型のスモールビジネス）をマネジメントする人が重要になる。

- ・ ひとり親の家庭の支援は課題だと思う。ひとり親は相当生活が厳しく、貧困の再生産も懸念される。重点的に支援しなければ、次の世代に響いていく。

## &lt;内田委員（中京大学経済学部 客員教授）&gt;

- ・ シェアリングエコノミーが、早ければ2020年度からGDPに算入されるとの報道がある。東京や大阪など消費マーケットが大きい方が有利であるため、そういうことを意識しつつ、数値目標などを検討していかなければならない。
- ・ 東京圏に若者が集まるのは、ヒト・モノ・カネ・情報全てにおいて最先端のものが集まっているから。一気に東京圏に追いつくのは難しいが、名古屋が刺激のあるまちに近づきつつあることを、分かりやすく打ち出していく必要がある。
- ・ 農業については、マーケットに近いという強みを活かし、農産品の高付加価値化を進め、他県のモデルケースとなっていくべきである。

## &lt;森川委員（名古屋大学未来社会創造機構 教授）&gt;

- ・ AI、ビッグデータ等の活用ではこの地域は弱い。シンガポール国立大や清華大などとの交流、連携を強化していくべき。活用できるデータの整備は行政が中心となって進めていく必要がある。
- ・ 愛知県は「住みやすさ」に加えて、「まちづくり」でも「選ばれる地域」にならなければならない。県内各市の魅力的なまちづくりについて、県がどこまで関与していくかが課題である。
- ・ 観光に関しては、北陸まで含めて広域的に連携しつつ、コンテンツ観光や、コト観光を進めていくとよい。

## &lt;昇委員（名城大学都市情報学部 教授）&gt;

- ・ 人口・経済増加社会の右肩上がりの時代と、人口減少社会の右肩下がりの時代では、幸せの価値観は違うため、これからの時代の人々に幸せや満足を感じてもらえる取組が重要である。
- ・ リニア中央新幹線が2027年度に名古屋まで開業してから全線開業までの期間が、愛知・名古屋が力をつけていくにあたって大事であり、東京圏と名古屋圏で高次都市機能を分担できるような大都市圏を目指すべきである。

## &lt;クマーラ委員（名城大学外国語部 教授）&gt;※当日欠席（事前に意見聴取）

- ・ 愛知・名古屋が他の地域と差別化できるのは「技術」の側面だと言える。産業観光は、見てもらうだけではなくて、ビジネスにまでつながるような仕組みがあるとよい。
- ・ 地域の中に外国人の居場所があるとよい。特に子どもたちと外国人が触れ合う場があるとよい。
- ・ 高度人材に来てもらうとき、家族をどうするのが大きな課題で、特に子どもの教育が問題となる。
- ・ アジアでは富裕層も増えるし、今までモノを買ってくれなかった人が、モノを買うことができるようになる。社会の大変化が起こりつつある。その現状を十分に理解してもらう必要がある。